

アクリダス児童養護施設が日本国政府の援助で総合調理センター及び食堂を落成

2013年8月9日、アクリダス児童養護施設（ACRIDAS）は、日本国政府による草の根・人間の安全保障無償資金協力の援助等を得て完成した、アクリダス児童養護施設総合調理センターの及び食堂の供与式を実施致しました。右式典には、内山在クリチバ日本国総領事、マルシオ・ヴィニシウス・ロドリゲス・アクリダス児童養護施設会長、ジョルジ・ヤマワキ・クリチバ市国際担当補佐官の他、同団体職員や同施設の入居者である児童や青少年など計50名が出席しました。

本案件の被供与団体であるアクリダス児童養護施設（ACRIDAS）は、保護者のない児童、虐待された児童やクラックベビーなど、保護を必要とする児童の支援を行っており、1万8500平方メートルの敷地内の乳児施設、幼児施設、青少年施設の9小舎にて88人の入居者を保護しています。各施設（小舎）ごとに1日3回の食事や軽食の準備をしていたため業務の効率性が低く、職員に大きな負担が生じていましたが、同団体は資金不足等の理由により、団体独自の予算で調理センター建設費を捻出することは極めて困難な状況にありました。このため同団体は、日本国政府に対し、本工事に対する資金供与の要請を行ったところ、日本国政府は本プロジェクトの重要性を認識し、草の根・人間の安全保障無償資金協力のスキームを用いて、同調理センターの建設工事を支援することを決定し、10万4,754米ドルを供与致しました。

同落成式において、挨拶に立った内山総領事は、「日本国政府は1999年から草の根・人間の安全保障無償資金協力を通じて、教育、職業訓練、医療と保健衛生及び環境等の分野においてブラジル各地の社会開発計画を支援してきました。本協力により今回調理センターが建設されることにより、調理業務の効率性が高まるとともに、今回のプロジェクトにより両国の絆が一層強化されることを祈念致します。」旨述べました。

続いて挨拶に立ったロドリゲス会長は、「我々の団体が発足してからの29年間、私たちは保護を必要とする乳児や児童、青少年の支援を行い、これらの子供達が直面する身体的及び精神的暴力をはじめとする数々の困難を少しでも軽減し、子供達が平和で幸福な人生を送れるよう、様々な活動を行っています。日本国政府は、入居する子供達に立ちほだかる厳しい現実を敏感に察知し、この調理センターの建設に多大な支援をして頂き、当団体の子供達に快適な環境を与えてくれました。」旨述べ、日本国政府を代表する在クリチバ日本国総領事館と日本国民に対し感謝の意が述べられました。

また、サントス・ガビ牧師は、同団体の夢をまた一つ叶えることができた旨述べ、「現在行っている努力が、蒔かれていく種のように、将来は実になり、より多くの人へ広がり還元されるものと信じています。」旨述べるとともに、日本国政府に対する感謝の意が伝えられました。

来賓挨拶のあと、同団体で保護されている子供達によるバイオリン演奏とコーラスが披露された後、内山総領事及びロドリゲス会長により本件草の根無償援助に対する感謝プレート除幕が行われ、同調理センター内にて和やかな雰囲気の中、供与式出席者や入居する子供達との懇談が行われました。